



目 次	
○令和4年度をふり返って	1
○令和5年度 研究の進め方	2
○事務局だより	4

第 55 号

令和4年度をふり返って

福島県中学校教育研究会技術・家庭部長 福地 淳一



令和4年度は、新しい研究主題「生活の営みや技術に係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための指導はどうすればよいか」のもと、1年次の副主題を「生活や社会の中から課題を見出し、見通しを持って解決しようとする課題設定の工夫」として、生徒の実態を把握し、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明らかにした上で、生徒が見通しを持ってより主体的に取り組み、深い学びへつながる課題設定の工夫について研究を進めてきました。

今年度から5月の支部専門部長会で主題研修を兼ねることとし、10月6日の会津大会は、参集とオンラインのハイブリッド開催となりました。授業提供者の会津若松市立第五中学校の佐藤雅之先生、星美香先生には、事前に録画した指導を提供いただき、研究協議を行いました。開催支部の全会津の皆様、各支部、会員の皆様のご協力、誠にありがとうございました。

10月7日には、東北青森・青森市大会が参集型で、11月18日には全日中栃木大会がハイブリッドで開催されました。

1月28日（土）には第22回全国中学生創造ものづくり教育フェアがオンラインで開催され、創造アイデアロボットコンテストに本県から4チームが出場しました。今年も取組校が限られており、県大会開催ほどの参加規模が無かったため、校内コンテストの結果から成績の良い順に県代表チームを選出しました。東北代表として、岩手県

城西中学校が基礎部門で1チーム、須賀川市立第二中学校が基礎部門で2チーム、福島市立吾妻中学校が計測・制御部門で2チーム出場し、各チームとも善戦しました。

また、計測・制御部門で、福島市立吾妻中学校の「22 あづまる1号」が審査員特別賞を受賞しました。おめでとうございます。会場は昨年同様、須賀川市立第二中学校を福島県会場としてお借りしました。多くの支部長様、関係の皆様は役員・審判として参集いただき、運営することができました。この場をお借りして深く感謝いたします。

令和5年度の研究主題は4年度と変わりませんが、2年次の副主題は、「主体的・対話的で深い学びを展開するための指導過程の工夫」です。他者と対話や協働をする中で、見通しを持って課題解決に取り組み、学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定したり、自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識する場面を設定したりすることで、自己の考えを広げ深めることができる展開の工夫を追究していくことになります。いかに他者の意見や自分の考えを比較・検討、融合していくことで、新たな問題解決の糸口を見つれたり、実際に問題解決をしていくことができるような展開が設定できる授業を構築していただきますようお願いいたします。

年々減少する会員の確保が大きな課題となっています。技術・家庭科に関して、ともに学べるこの研究会は教科にとって唯一無二のものと思っています。存続を維持するためにも会員の維持・新規加入を強く望むものです。皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

令和5年度 研究の進め方

1 令和4年度の研究の成果と課題

(1) 成果

技術分野

・ 導入段階の指導過程の作成

- 森林資源の育成方法や利用方法、木質材料の生産方法や再利用などの仕組みを指導過程に取り入れ、持続可能な社会の構築に必要な視点を持たせながら構想・設計をすることができた。
- 指導過程について、授業を細分化し実態や現状をどう授業に取り入れていくかを検討することで、研究副主題に迫ることができた。
- 導入段階に模型を提示するという工夫は、理解を助ける教具として効果が高かった。
- 実物を用意し観察させる体験的な学習などを指導過程に組み入れることで、学習して得た知識や技能を生活の中に生かしていく視点を持たせることができた。

家庭分野

・ 導入段階の指導過程の作成

- 段階を追って学習が深められるような題材配当と学習した知識や技能を生かす場面の設定を行い、自分自身で生活をよりよいものにしていこうとする意識を高めることができた。
- 自分の生活を自分自身で見直すための「改善シート」を指導過程に設定し、自ら実践しようとする意欲を引き出すことができた。
- SDGsの観点を明示することで、持続可能な社会の構築に向けた学習の目的、生活のゴールを明確にすることができた。
- 実態把握や学習記録をタブレットで行ったことで生徒の思考が見取りやすくなった。

(2) 課題

技術分野

- タブレットを用いて自分の生活と学校の学習を映して考えるという指導過程の工夫は興味・関心を高める上で有効であったが、家庭内の様子が他の生徒にも見られてしまう事もあり、注意が必要と考える。
- 生徒の思考力や実践力の定着を図るために評価の積み重ねが必要である。生徒が適切に振り返り、成就感をもって課題に取り組めるよう生徒の変容に対応した指導を行う必要がある。
- 導入段階での課題の工夫が、課題解決段階でも有効に機能するよう指導上の留意点にどうつなげていくかが大切である。
- 会員数が年々減少しており、研究が深まらない。また支部としての活動が困難になっている。会員個人の負担も大きく、活動支部としての再構築が急務と考える。

家庭分野

- 支部の会員数が大変少なく、コロナ禍で研修機会が限られてしまったが、消費生活センターから講師を招くなどの工夫で理解を深めることができた。学ぼうとする教師各々の意識が大切である。
- SDGsについては内容が広範囲なため、他教科との関連や取り扱う時期など計画的に進めていくことが課題である。
- 生徒にもっと考えさせたい場面が多い領域や、実習時間をしっかり確保したい領域も多く、限られた時数の取り扱いが難しい。
- ICT機器は課題解決のツールとして有効であるが、生徒それぞれの技能や慣れに偏りがある。操作に慣れさせる工夫も必要と考える。

2 研究主題・副主題

研究主題		研究主題設定の趣旨
生活の営みや技術に係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための指導はどうすればよいか		子どもたちには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けることが求められている。生活の中から問題を見だし課題を設定し、見通しを持ってそれを解決したり、生活を工夫し創造したりする資質・能力の育成を目指す。
研究副主題		研究推進の概要（内容・方法）
令和4年度	生活や社会の中から課題を見出し、見通しを持って解決しようとする課題設定の工夫	生徒の実態を把握し、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明らかにした上で、生徒が見通しを持ってより主体的に取り組み、深い学びへつながる課題設定の工夫について研究する。
令和5年度	主体的・対話的で深い学びを展開するための指導過程の工夫	他者と対話や協働をする中で、見通しを持って課題解決に取り組み、学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定したり、自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識する場面を設定したりすることで、自己の考えを広げ深めることができる展開の工夫を追究したい。
令和6年度	よりよい生活の実現のため、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するためのふり返りの工夫	ふり返し活動は、学習をふり返し、学びを定着させるために大変重要な意味を持つ学習活動である。学びを深めるために、ふり返し活動をとおして、学びの中における生徒の成長・変容を明らかにする方法について研究する。

※ 詳しくは、「令和5年度 研究の進め方」（別紙）をご覧ください。

事務局だより

本年度の県会津大会は、会津若松市立第五中学校で開催され、事前に録画した授業を視聴しておき、当日の研究協議は参集型とオンラインのハイブリッドで行われました。東北大会青森大会は参集型で、授業のポイントを動画で提示しながら授業者が説明した後、研究協議を行いました。参集型の研究協議は、やはりそれぞれの先生方が真剣かつ熱く語っている姿が印象的でした。全国大会栃木大会は YouTube による授業配信が行われました。研究主題は、「よりよい生活を追求し、未来を創造していく生徒を育てる技術・家庭科教育～学びのつながりを生かした学習と創造する力を育む問題解決的な学習を通して～」で、技術・家庭科の学習の中で、これまで学んだ知識及び技能や思考力、判断力、表現力等をつなぎ、適切な場面で意図的に問題解決的な学習を行うことで、よりよい生活を追求し、持続可能な社会を創造していく生徒を育てようと、研究が進められました。

今回のそれぞれの大会から感じたことは、その時の感染症の状況等で突然できなくなることも当然出てきますが、どんな形でも先生方が工夫をこらして大会を実施し、自分たちが研修する機会を設けることが大切であると感じました。

先日、広島県でロボコンの研究実践を行っている方からお誘いがあり、オンラインでの研究協議会に参加しました。全国各地からの参加があり、限られた時間ではありましたが、数々の情報をリアルタイムで知ることができました。こういう紹介等も中教研を通じて発信していきたいと思います。会員数が年々減少し、各校に一人どころか、複数校掛け持ちという状況も珍しくない中で、数少ない研修の機会として、中教研、各種大会を大いに利用していただきたいものです。

令和5年度の各大会日程は次のとおりです。現地開催の予定ですが、オンライン開催等の変更の可能性もあります。

- 県研究協議会 いわき大会
10月 5日（木）技術
いわき市立磐崎中学校
家庭
いわき市立内郷第一中学校
- 東北大会
10月27日（金）湯沢市立湯沢南中学校
福島県発表
第2分科会（生物育成の技術）
第7分科会（消費生活・環境）
- 全国大会
11月9日（木）10日（金）
静岡県沼津市プラサ ヴェルデ他

◎ お知らせ

令和4年度より、
文部科学省 初等中等教育局教育課程課
教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター

研究開発部 教育課程調査官 渡邊 茂一 様
文部科学省 初等中等教育局教育課程課
教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター
研究開発部 教育課程調査官 熊谷有紀子 様
が就任し、東北大会、全国大会ではそれぞれ指導助言をいただきました。

令和7年度は6年ぶりに東北大会が福島県で開催されます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

福島県中学校教育研究会技術・家庭部報第55号
発行責任者：福地 淳一（福島市立清水中学校）
編集責任者：中教研技・家部会事務局 広報部